



がんばれ！未来をつくる熱量のくらべっ。

とくち まさる
戸口 勝が問う

未来を拓く新年度の戦略は

Q 国の地方創生関連交付金の活用は考えているのか。

A 政策推進課長 地方創生拠点整備交付金を活用し、子育て支援センターと旧下里分校の一部を、子育て支援と地域資源PRの拠点として計画しています。また、商工会と連携して創業希望者への相談窓口開設や、空き店舗改修補助等の支援を強化する「創業者支援」を計画しており、国への申請や計画策定の準備を進めています。

Q 「町における安定した雇用を創出する」企業誘致策の具体案は。



放課後学童クラブに入れるから親は安心して働ける。

いぐちりょういち
井口亮一が問う

放課後子供教室の開設は

Q 放課後子供教室の開設に向けた取り組み等は。

A 学校教育課長 準備会議を立ち上げて、運営方法や人材確保など検討しています。来年度、1カ所を開設します。

Q 放課後学童クラブの定員は適正か。また、指導員の不足や待遇に課題はないか。

A 学校教育課長 みどりが丘小学校区の入所希望が増えたため、余裕教室を活用し、「杉の子放課後学童クラブB」を開設しました。また、各学童クラブに



人材育成こそが、未来の小川町を明るくします。

たかはし
高橋さゆりが問う

学校教育の充実を

Q 国では、がん教育に対して来年度から本腰を入れるようだが、当町の取り組みは。

A 学校教育課長 埼玉県教育委員会が実施している「がんの教育総合支援事業」などの研究成果を生かしながら、町内小中学校のがん教育の充実を図っていきます。

Q 家庭環境の変化で、児童・生徒が孤独になつていく場合がある。学校がどこまで関わるのか。また、地域や行政との連携はどう取り組んでいるのか。

A 学校教育課長 担任や学校が個々の家庭内の状況に踏み込むことはおのずと限界があります。

A にぎわい創出課長 事業者を訪問しています。また、県との連携で誘致につながる土地の洗い出しをしています。

Q 小川町で子育てがしたい・移住したいと考える方へ、職員の想いが伝わる役場のしつらえ、ホームページでの受け入れ体制は整っているのか。

A 副町長 しつかり届けられるよう、たゆまずにホームページや職員の対応を行なっています。

Q 本年も20を超える総合戦略事業が展開されているが、計画担当課、事業担当課、その他の課での戦略事業への熱量に違いはないか。

A 政策推進課長 熱量はどの課も負けていません。すべての課が戦略の一翼を担う気概で取り組みます。



国の交付金活用が期待され、整備予定の子育て支援センター。



利用する児童が増えている、みどりが丘「杉の子学童クラブ」。

において、指導員数は基準を満たしています。待遇改善については、今年度、国・県の補助金を活用し、すべての学童クラブで一時金の増額が予定されています。

専門員の配置は

Q 特別支援学級において、看護師等の専門員は適切に配置されているか。

A 学校教育課長 現在、特別支援学級で医療行為を必要とするために看護師を配置している学校は、中学校1校・小学校1校です。看護師は、臨時職員として採用しており、「臨時職員登録名簿」を参照し、有資格者に連絡と確認を行なっています。しかし、実際には有資格者の登録が少ないので、ハローワークに人材募集の依頼をするなど看護師の確保に当たっています。



がん教育の先進地、熊谷市大原中学校の生命の授業風景。

A 学校教育課長 担任や学校が個々の家庭内の状況に踏み込むことはおのずと限界があります。

適宜、「さわやか相談員」「スクールカウンセラー」「スクールソーシャルワーカー」と、民生委員・児童委員・行政長官・PTA等との情報交換をしています。また、主任児童委員・子育て支援課・児童相談所等で相談を行なっています。

Q 認知症サポーター養成講座の小中学校への展開は。

A 学校教育課長 まず中学生を対象にしていきたいと考えています。継続的に実施できるよう体制を整えていきたいと考えます。

その他の質問

・町有地の活用は



このごろ議会での発言が活発になっています。喜ばしいことです。

(T・Tさん・81歳)



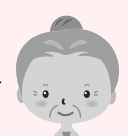
議員全員が議場入場・退場のとき、一礼していますね。感じがいいです。

(S・Kさん・53歳)



町民に開かれた議会とは？ 本気で考えてください。

(T・Sさん・75歳)



住みやすい町にしたいってください。

(M・Kさん・63歳)

Mini Column

オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考えよう
「議会のイメージ・期待することは」